

攻撃自在、県岐阜商を圧倒



男子決勝・大垣日大×県岐阜商。片手でトスを上げる大垣日大の宮田(4)。(OKBぎふ清流アリーナ)

県高校新人大会

県高校新人大会は4日、OKBぎふ清流アリーナなどでバレーボール、サッカーなどを

行った。バレーボールは男子大垣日大が25年ぶり6度目、女子益田清風が11年ぶり2度目の優勝を果たした。

サッカーは準決勝を行い、帝京大可児と岐阜工が5日の決勝に進んだ。

バレーボール

バレーボールはOKBぎふ清流アリーナで男女

の準決勝、決勝を行い、男子は大垣日大が25年ぶり6度目、女子は益田清風が11年ぶり2度目の優勝を果たした。

決勝で、大垣日大、益田清風はともに県岐阜商と戦い、いずれも2-0で勝った。

男女各上位4校が、東

県岐阜商 2(25-16)0 長良

大垣日大	2	2525	2313	岐南工
▽同決勝				
大垣日大	2	2525	1418	県岐阜商
▽女子準決勝				
県岐阜商	2	2525	2021	岐阜第一
益田清風	2	2725	2515	岐阜総合
▽同決勝				
益田清風	2	2725	2518	県岐阜商

大垣日大 男子 25年ぶりV

V ストーリー

男子決勝は、大垣日大が最後まで試合の主導権を握り続けた。各セット序盤に大きく点差を離し、2連覇を狙う県岐阜商を25-18、25-14と突き放した。チームを25年ぶりの優勝に導いた竹中城史監督は「自分たちが

やってきたことをコートに出して、一つの結果になった」と落着いた様子で振り返った。

第1セットは、硬さが見られる相手を尻目に最大10点差を離し、第2セットは0-0からの5連続得点が勝利を引き寄せた。セッター宮田将護の絶妙なトスワークが光り、変幻自在の攻撃が最後まで機能した。時間差や速攻の使い分

けに加え、配球先も分散。「とにかく単調にならないように気を付けた」と、常に相手ブロックを少なくさせる戦い方を心掛けた。要所では、勢いに乗った牧野光輝、小林雅治にトスを集める場面もあり「調子の良い選手に打たせて、さらに流れを持たせて、さらに流れを持たせてくる狙いもあった」とアタッカー陣を巧みに操った。宮田と抜群の呼吸だった小林は「いつも

より高い打点で打てた」と胸を張った。他にも片手でのトスを隙を突くアタックで、十分に司令塔の動きをこなした宮田。だがまだ(トスが)ブロックに付かれていた。どこに上げるか分からないぐらいになり「と満足した様子は無い。県1位で臨む東海大会までに、チームはレベルアップを目指す。」(山本貴史)